| | |
|---|---|
| 事例No. | 2619 |
| 公表年度 | R5 |
| 団体の属性 | その他 |
| 団体名 | プチ送迎ボランティア |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 地域活性化 |

| | |
|---|---|
| タグ | ・交通事業<br>・福祉・介護<br>・地域運営組織 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 交通事業 |

事例内容・タイトル

プチ送迎ボランティア

出典

平成28年度ふるさとづくり大賞事例集

## プチ送迎ボランティア　　長野県松本市

### 概　　要

新村地区は高齢化率が非常に高く、日常の買い物や通院等に困っている高齢者の「足」の問題が顕在化していた。こうした中、地元大学生と協力し実態調査を行うとともに、課題解決のため試行錯誤した結果、近隣のスーパーや医療機関へのドアtoドアによる送迎を行うこととし、住民主体のボランティア組織を設立した。週３回の送迎が高齢者の「足」として定着してきている。



### 評価された点

・高齢者の域内交通手段の確保は、全国的な課題となっている。送迎ボランティアに大学が参画し、継続性が高い取組。
・地域課題である交通弱者問題を住民が主体となり解決する仕組みを作り上げたことは、高く評価。様々な課題の中、地区住民の「互助の精神」の結集ともいえる本事例は、「地域活性化」の手本となる優良事例。
・車を運転できない人でも田舎で暮らせる仕組みを考えており、持ちつ持たれつで些細なことに見えても素晴らしい。
・足を確保する。これはまさにライフラインの確保である。地方のいずれもこの課題に取り組んでいるところであるが、こうした、まずは身近にある手立ての実験・実践が地域を支えていくことと直結していると言える。
・地味ながら、高齢化問題を自力で解決しようとする試みは時代のニーズを捉えており、ある意味これからは市民活動の主流であると思う。




## 大野木長寿村まちづくり会社　　滋賀県米原市

### 概　　要

高齢化が進む地域に危惧を抱き、「身の丈に合った内容で、今やるべきこと、出来ること」を実施するため、平成23年に民生委員・児童委員経験者、区長経験者７名が自主的に集まり立ち上げたもの。高齢者からの要望に応じて社員を派遣する高齢者支援訪問事業や食堂の運営、昼食弁当の配達など多岐にわたる活動を展開し、「地域の課題は地域で解決する」をコンセプトに、「小さな新しい公共」の実現に向けて独自の地域づくりを進めている。



### 評価された点

・地域の高齢者は地域で支援をしていくという方向性で、多数の事業を展開。多世代交流につなげており、高く評価。
・地域の課題は地域で解決している好事例。高齢者と子供との交流が活発に行われている。
・行政が手が届かない地域の課題をコミュニティビジネスにして持続可能な仕組みで解決につなげ、安心して暮らせる地域を住民自らが作りだすことに成功。地域福祉のモデルケースであり、高く評価。
・地域課題を自ら解決することが重要。全国モデルとして評価。
・活動を開始して５年が経過しても会員数が増加。運営費がすべて事業収入。事業総点検、改善などに取り組んでおり、今後の事業継続可能性が高い。地域に根付いた活動である。
・「小さいけれども新しい形の公共」という視点が魅力。事業のメニューも豊富。自発的なアイデアが活かされている。

